

平成21年度事業報告書

1 建学の精神

創立者の渡邊正助・富久子両先生が「戦後の荒廃の中で、手に職のない婦女子を洋裁の技術修得により自立させる教育事業を起こした」開学の精神に則り、職業人として自立できる「食と栄養」に関する高い知識と技能を教授すると共に、学生生活をとおして「誠意」即ち何事にも真心で接し、真摯に努力する心、「熱意」即ち知識技能を積極的に活用し、困難や障害に立ち向かいそれを乗り越える努力をする心、「創意」即ち何事に対しても創意工夫を心掛け、基礎や基本を踏まえて新しい事にチャレンジする心を育み、広い視野と品性を備えた社会に貢献できる人材の育成を建学の精神とする。

2 教育理念

大学では、小規模である特長を活かし、個性を重視した教育を通して、社会人として必要な豊かな教養とマナーを身につけさせると共に、「食と健康」に関する実務教育を行っている。学生個々人の持つ潜在能力を見出し、それを萌芽させ、更に育むための教育、いわゆる「手作り教育」を実践し、専門教育においては、基礎的な教科を十分理解させると共に、応用力が身につくような教育を行い、社会人として広い視野で物事を判断し、行動できる人材の育成を行っている。

3 法人の概要

1) 設置する学校

東京聖栄大学

健康栄養学部 管理栄養学科
食品学科

聖徳調理師専門学校

調理師専門課程 専門調理技術科
調理師科

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

2) 入学定員、学生数の状況

東京聖栄大学

健康栄養学部

	入学定員	収容定員	現 員
管理栄養学科	80名	320名	349名
食品学科	80名	320名	212名
計	160名	640名	561名

聖徳調理師専門学校

調理師専門課程

	入学定員	収容定員	現 員
専門調理技術科	40名	80名	49名
調理師科	120名	120名	45名
計	160名	200名	94名

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

入学定員	収容定員	現 員
300名	300名	304名

3) 役員、教職員の概要

理事8人

監事2人

教職員数

区分	法人本部	大学	専門学校	幼稚園	計
専任教員数		35名	6名	12名	53名
専任職員数	3名	24名	5名	5名	37名

4 法人の沿革

本法人は東京都葛飾区の現在地に昭和22年洋裁学院を創立、同29年栄養士養成施設聖徳高等栄養学校設立の後、聖徳栄養専門学校に校名変更し、同校は昭和38年聖徳栄養短期大学に昇格した。

また聖徳栄養専門学校調理師科から独立した調理師学校は昭和52年専修学校 聖徳調理師専門学校として認可、同年千葉県鎌ヶ谷市に幼稚園を開設、平成17年には短期大学を四年制大学へと改組、名称も東京聖栄大学として開学し今日に至る。平成19年、創立60周年を機に法人名を学校法人オリムピア学園から学校法人東京聖栄大学と改称した。平成21年3月東京聖栄大学第一期生が卒業。

昭和22年	4月	オリムピア洋裁学院開校。
昭和23年	10月	財団法人オリムピア学園設立認可。(文部大臣)
昭和26年	3月	学校法人オリムピア学園に組織変更認可。(東京都知事)
昭和29年	3月	聖徳高等栄養学校設立認可。(東京都知事)
昭和29年	4月	聖徳高等栄養学校を栄養士養成施設として指定。(厚生大臣)
昭和32年	8月	オリムピア洋裁学院を「聖徳服飾専門学校」聖徳高等栄養学校を「聖徳栄養専門学校」に改称。
昭和35年	2月	聖徳栄養専門学校に調理師科を設置。調理師養成施設として指定。(厚生大臣)
昭和38年	1月	聖徳栄養短期大学の設置認可。(文部大臣)
昭和38年	3月	聖徳栄養短期大学食物科第1部(後に食物栄養科さらに食物栄養学科第1部と改称)を栄養士養成施設として指定。(厚生大臣)
昭和39年	3月	聖徳栄養専門学校の短期大学昇格に伴い同校栄養本科を廃止、 4月1日より校名を「聖徳調理師学校」と変更。
昭和41年	4月	聖徳服装専門学校を「聖徳服装学院」と改称。
昭和52年	2月	聖徳服装学院及び聖徳調理師学校を専修学校として認可。(東京都知事)
聖徳服装専門学校		聖徳調理師専門学校と改称。
昭和52年	3月	聖徳栄養短期大学附属わたなべ幼稚園設置認可。
昭和60年	12月	短期大学食物栄養学科第1部専攻課程設置認可。(食物栄養専攻、食品科学専攻)(文部大臣)
平成元年	4月	短期大学食物栄養学科第1部を同第2部廃止に伴い「食物栄養学科」と改称。
平成4年	1月	服装専門学校廃止認可。(東京都葛飾区長・文部大臣)
平成6年	12月	調理師専門学校調理師専門課程専門調理技術科(修業年限2年)設置。(東京都葛飾区長)
平成7年	12月	短期大学専攻科食物栄養専攻設置。(文部大臣)
平成8年	1月	短期大学専攻科食物栄養専攻学位授与機構長認定。
平成8年	12月	調理師専門学校調理師専門課程専門技術修了者に専門士の称号授与の課程認定。(文部大臣)
平成14年	11月	短期大学食物栄養学科食品科学専攻製菓・製パンコースを 製菓衛生師養成施設として指定。(厚生労働大臣)
平成15年	5月	公開講座を葛飾区教育委員会と共催実施を締結。
平成16年	11月	東京聖栄大学設置認可(文部科学大臣)。開設時期平成17年4月1日。
平成17年	2月	健康栄養学部食品学科食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成施設登録(厚生労働大臣)。
平成17年	3月	健康栄養学部管理栄養学科の栄養士養成施設内容変更承認(厚生労働大臣)
平成17年	3月	健康栄養学部管理栄養学科の管理栄養士養成施設の指定(厚生労働大臣)
平成18年	5月	放送大学と単位互換協定締結
平成18年	9月	聖徳栄養短期大学廃止認可
平成19年	6月	法人名を学校法人東京聖栄大学に変更
平成21年	4月	聖徳調理師専門学校調理師専門課程調理師科入学定員120名を80名に変更
平成22年	4月	聖徳調理師専門学校調理師専門課程専門調理技術科生徒募集停止

5 平成21年度入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

東京聖栄大学 健康栄養学部

学科	入試区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
管理栄養学	指定校推薦	8名	14名	14名	14名	
	公募推薦 期	20名	39名	38名	25名	
	公募推薦 期	若干名	14名	14名	5名	
	小計	28名	67名	66名	44名	
	一般入試 期	40名	100名	91名	80名	
	一般入試 期	6名	26名	26名	9名	
	小計	46名	126名	117名	89名	
	センタ試験利用入試 期	4名	106名	106名	37名	
	センタ試験利用入試 期	2名	9名	9名	5名	
	小計	6名	115名	115名	42名	
計	80名	308名	298名	175名	87名	
食品学科	AO入試	8名	16名	16名	16名	
	指定校推薦	8名	10名	10名	10名	
	公募推薦 期	12名	2名	2名	2名	
	公募推薦 期	6名	7名	7名	7名	
	特別推薦指定校入試	4名	4名	4名	4名	
	特別推薦公募制入試	2名	1名	1名	1名	
	社会人特別入試	若干名	0名	0名	0名	
	小計	40名	40名	40名	40名	
	一般入試 期	24名	14名	14名	13名	
	一般入試 期	10名	13名	11名	11名	
	小計	34名	27名	25名	24名	
	センタ試験利用入試 期	4名	28名	28名	27名	
	センタ試験利用入試 期	2名	4名	4名	4名	
	小計	6名	32名	32名	31名	
計	80名	99名	97名	95名	59名	
合 計		160名	407名	395名	270名	146名

AO入試エントリー者数 18名 出願許可者数 16名

聖徳調理師専門学校

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
専門調理技術科(2年課程)	40名	29名	29名	29名	28名
調理師科(1年課程)	80名	46名	46名	45名	43名
計	120名	75名	75名	74名	71名

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

募集人(定)員	年少	年中	年長	計	入園児数
新入園児数	77名	24名	5名	106名	106名
園児数 300名	85名	114名	105名	304名	304名

参考 <平成22年度入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数>

東京聖栄大学 健康栄養学部

学科	入試区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
管理栄養 学 科	指定校推薦	16名	10名	10名	10名	
	公募推薦 期	20名	33名	33名	28名	
	公募推薦 期	4名	6名	6名	6名	
	小計	40名	49名	49名	44名	
	一般入試 期	28名	73名	65名	63名	
	一般入試 期	6名	16名	14名	11名	
	小計	34名	89名	79名	73名	
	センタ試験利用入試 期	4名	80名	80名	57名	
	センタ試験利用入試	2名	8名	8名	8名	
	小計	6名	88名	88名	64名	
	計	80名	226名	216名	183名	92名
食品学科	AO入試 期	16名	18名	18名	18名	
	AO入試 期	4名	3名	3名	3名	
	小計	20名	21名	21名	21名	
	指定校推薦	12名	17名	17名	17名	
	公募推薦 期	12名	5名	5名	5名	
	特別推薦指定校入試	4名	2名	2名	2名	
	公募制特別推薦入試	2名	0名	0名	0名	
	卒業生子女等特別入試	若干名	0名	0名	0名	
	小計	30名	24名	24名	24名	
	一般入試 期	20名	9名	8名	7名	
	一般入試 期	6名	7名	6名	6名	
	小計	26名	16名	14名	13名	
	センタ試験利用入試 期	4名	17名	17名	16名	
	センタ試験利用入試	若干名	3名	3名	3名	
	小計	4名	20名	20名	19名	
計	80名	81名	79名	77名	56名	
合 計		160名	307名	295名	260名	148名

AO入試 期エントリー者数 19名 出願許可者数 18名

AO入試 期エントリー者数 4名 出願許可者数 3名

聖徳調理師専門学校

学 科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
調 理 師 科 (1年課程)	80名	82名	82名	82名	76名
計	80名	82名	82名	82名	76名

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

募集人(定)員	年少	年中	年長	計	入園児数
新入園児数	84名	24名	1名	109名	109名
園児数 300名	92名	103名	110名	305名	305名

参考

平成22年5月1日現在

入学定員、学生数の状況

東京聖栄大学
健康栄養学部

	入学定員	収容定員	現 員
管理栄養学科	80名	320名	359名
食品学科	80名	320名	200名
計	160名	640名	559名

聖徳調理師専門学校
調理師専門課程

	入学定員	収容定員	現 員
専門調理技術科	40名	80名	27名
調理師科	80名	80名	77名
計	120名	160名	104名

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

入学定員	収容定員	現 員
300名	300名	305名

6 事業の概要

学校法人東京聖栄大学は大学開学後5年を経過し、教育・研究体制の基礎固めを第一に、経営基盤の強化と教育研究の質的強化に取り組み、社会の要請やその評価に応えられる人材育成と地域社会との連携を視野に、学生が質的充足感を得られるように改革の推進を図っている。

<大 学>

(1) 教育課程の見直し

教育課程の一部変更を行い内容の充実を図ると共に、卒業要件を見直し、平成21年度入学生から新たなカリキュラムのもとでの授業体制をとることとした。

管理栄養学科・食品学科共通

初年次教育の強化

本学入学生が苦手とする自然科学系列教科、専門基礎教科の強化の一環として、教養分野・自然科学に選択教科「化学入門」を置き、実力試験を行い、習熟度別の履修とする。

管理栄養学科

国家試験対策を視野に入れた教育科目の充実

専門基礎分野の「食べ物と健康」科目構成を一部変更

総合分野に管理栄養士国家試験受験準備に繋がる科目を新設

食品学科

コース制を採用

教育課程を再編成し、専門分野の科目構成を見直し、専門分野の分野構成を従来の6分野から9分野に拡充、基礎能力を高め、高度な専門性を修得できるように構成。平成21年度入学者から、2年進級次に2つのコース「フードサイエンスコース」「フードビジネスコース」の中から各自の適性に合わせて選択履修する制度とする。フードビジネスコースは2年次までに所定の単位をとり、成績も良好であれば併設校への学内留学制度を設け、3年進級時に調理師免許の取得を可能とすることとした。

食品衛生管理者・食品衛生監視員資格取得（任用資格）については、同養成課程の選択履修者にのみ取得することに変更。

(2) 国家試験対策

本学1期生の管理栄養士国家試験合格率は当初考えていた目標に到達せず、この結果を謙虚に受け止め、教員も学生も認識を新たにし、改めて補習、模擬試験など種々の企画等をすすめることとした。本年度から国試対策室を設置、担当教員を配置し、学年担任とも連携をしながら充実した個人指導を行うことにより学力向上が図れるよう体制の整備を行った。

(3) 学生生活支援

在学生で組織されている学友会代表者と学長等大学代表者との「学生との意見交換会」が7月に行われ、活発な意見交換が交わされた。学生の要望で対応が可能な案件については、設備面も含め解決が図られた。

(4) キャリア・就職関係支援

学生の就職意識と能力の向上を図る支援業務を継続。

本年は経済の急激な悪化の影響下であったが、4年次生の就職活動を積極的に支援、就職率は2学科共90%を超え平均94.6%（前年度96.3%）となった。

1年次から最高学年次まで、段階に応じたキャリア支援、就職支援をしているが、3年次から本格的な就職サポートを開始し、各種講座の開催や、学内企業説明会を行っている。

<就職状況>

管理栄養学科	多くの学生は専門職として内定 主な就職先 埼玉県栄養士 千葉県栄養士 東京大学医学部 附属病院(好仁会) アンデルセン保育 ニッ コクトラストなど
食品学科	研究技術、食品製造、調理など、大学での研究教育の成果 を活かす職種に多くは内定 主な就職先 横浜市食品衛生監視員 白松がモナカ本舗 千足 屋 高瀬物産 伊勢丹など

(4) 入試関係(募集方法の改善)

食品学科 推薦入試 期を廃し、AO入試 期を導入

(5) F D活動

F D委員会で年間の活動計画を策定

授業アンケートのほか次のテーマで講演会を実施

- ・ 7月 「これからの大学教育におけるF Dの必要性」
- ・ 10月 「認証評価と大学のあり方」

<専門学校>

理事長の諮問委員会として、学園理事、教員、職員を構成員とする専門学校将来課題検討結果を踏まえ、平成21年度の学生募集については、1年制課程 調理師科の定員120名を80名に減員した。

1年制課程については、特待生入学制度を新たに導入し、入学者数の増加を図る一方、2年制課程は、次年度以降の学生募集を停止することとした。

出口である就職対策指導にも力をいれているが、本年は経済不況の影響もあり、学校斡旋の就職希望者の内定率は93.6%に留まった。

<幼稚園>

新教育要領に基づき、幼児期にふさわしい生活の展開と適切かつ柔軟な指導が行われるよう指導計画を作成し、徳育、食育、体育の三つを柱とした保育内容の充実を図っている。子育て支援として「親子教室」「2歳児対象の幼児教室」「わらべ唄の会」を実施、本年は併設の東京聖栄大学学生による在園児に食育の実践活動を行った。

また、外部教員研修に参加のほか8月に指導力向上のため園内教職員研修を実施。

<職員研修>

学内では9月上旬に職員研修会を実施、「学園の財務状況」について講演を行い、現状の理解を深めると共に「教育職員との連携」についてのグループ討議などを行って、職員の意識向上を図った。また加盟協会その他外部の研修会に、積極的に参加し、意欲向上と実践の場で活かすことができるよう努めた。

<生涯学習センター、公開講座>

地域社会との連携を図るため、本年度も東京都葛飾区教育委員会との共催も含め公開講座4講座(大学 2、専門学校 2)を実施した。センター登録者は1,431名、新規応募者は119名。応募率は昨年とほぼ同様の1.25倍で大きな変動はない。

大学では小学生対象の親子講座、「キャベツで調べる酸とアルカリ」「バターと裂けるチーズの手作り体験」の2講座を実施した。また、専門学校でも季節に因んだ「クリスマス」「ひな祭り」料理講習会を行った。

食育

1) 専門学校では、食育授業として葛飾区教育委員会の協力の下に実施した。

これは都が指定する事業概要趣旨に基づき専門学校が企画立案したもので、東京都あるいは葛飾区食育研究指定校である葛飾区立小学校、同区立中学校で計3校5日間

行った。

2) 大学の葛飾区食育推進計画事業への協力(地域食育推進サポーター)

葛飾区の食育推進事業計画の一環として、新小岩北口駅前商店会の飲食店の協力を得て、保健所と本学とがタイアップして21年度から食育月間、食育の日の6月19日から毎月19日に食事バランス・栄養知識などのヒントを「かつしか知っ得メモ」として毎月更新し、各テーブルに掲示し啓蒙を図っている。

< 広報活動 >

大学関係

ホームページはトップ頁をリニューアルし、紹介記事の更なる充実を図る。

オープンキャンパスでは受験対象者の減少対策として、模擬講義だけでなく複数の体験実習を加え、大学への理解を深める工夫をして、高等学校1年、2年生参加への対策も行う。また、DVDを完成しビジュアルによる大学紹介を追加。

さらに、既存の各地進学相談会のほか新規説明会に参加。

専門学校関係

パンフレットをカリキュラムや入学に関する特徴を中心とした内容に刷新、一日体験入学、説明会を実施し、参加者数は前年並みを確保した。

大学は健康栄養学部二学科、管理栄養学科・食品学科の志願者数減少傾向が続き、食品学科は定員割れとなっている。専門学校は志願者数が伸び悩み、1年制課程の入学定員減をしたが、入学者数の確保は依然厳しい状況にある。

< 施設、設備関係 >

大学 ビデオプロジェクター、スクリーン等設置(5講義室)
調理実習室(1号館2F)コンビネーションカメラ新設
地上デジタル対応設備(1・4・5号館)、
防犯用監視カメラ設置
図書館棟 外構(フェンス・門扉)新設工事
校舎(1号館)外階段防錆塗装工事、
幼稚園 園庭既存遊具増設
園舎内トイレ改修工事

IT情報処理関係

全学園の情報処理システム、IT環境の整備を継続。

PC整備、端末機器の更改

情報処理実習室を授業時間外に開放し、学生の利便を図った。

< 内部監査 >

学内規程に基づき、理事長直属の組織として内部監査制度を置き、職員2名を監査委員に委嘱した。監査業務計画書に基づき本年度は大学専任教員4名への学内配当予算の内、「特別研究」「共同研究」について監査を実施した。書類審査後、実地調査、ヒアリングを行い確認した。

< 収益事業 >

収益事業として平成19年から引き続き、旧学生寮の施設を、不動産賃貸業者に賃貸しているほか、新たに葛飾区からの依頼を受け、1号館裏の校地を事業用地として変更、駐輪場用地に提供するなど収益の増加を図り、財務の充実に努めている。